



## 生きていてどんなことなの

これは、**大変むずかしい問題**

「生きていてはどうか」というのは、**大変むずかしい問題**です。この問題をしんげんに考えることから、**宗教**とか**哲学**が始まるのだという人もいます。

医学を学ぶための**教科書**にも、「**生命**を、**自然科学的**にこういうものだ、**決める**ことは**困難**だ」と、書いてあるそうです。

ですから、ここでは、**反対**に「**死ぬ**とはどうか」を、**考えて**みたいと思います。

**お医者さんが、死んだと判定するのは**

**死ぬ**というのは、**生きて**いる**状態**から**生きて**いない**状態**になり、**再び**、**生きて**いる**状態**にはもどらないことです。

お医者さんが、人が**死んだ**かどうかを**確認**するのは、**心臓**が**止ま**っている**呼吸運動**が**止ま**っている**瞳孔**(**黒目**の**真ん中**にある、**丸い真っ黒い**ところ)が**開**いているの、**3つ**のことを調べて、**判定**しているのです。この**3つ**で、**なぜ死んだと判定**できるのかというと、**心臓**は、**全身**に**血液**を送るはたらきをしています。**心臓**が**止ま**ると、**血液**が**流れ**なくなり、**酸素**も**栄養**も**運ば**れないため、**全身**の**細胞**は**次々**と**死**んでいくことになります。**呼吸運動**は、**肺**が**し**ています。**肺**は、**空気**の**中**から**酸素**を取り出すはたらきをしています。**肺**が**動**くのは、**脳**の**中**の**脳幹**から**命令**が**出**ているからです。**肺**が**呼吸運動**をやめると**血液**が**酸素**を**全身**に**運**ぶことができず、**全身**の**細胞**は**活動**できなくなります。また、**瞳孔**が**開**いたり**閉**じたりすることも、**脳幹**から**命令**が**出**ており、**瞳孔**が**開**いたままということは、**脳幹**が**死**んだということの、**しるし**の一つになります。このように、この**3つ**のことを**確認**すれば、**死んだと判定**できるのです。(監修・保志 宏)

